

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	宝永きらめきハウスは、「あなたらしさいつまでも」を基本理念とし、「せいきょう10の基本ケア」をケア指針に生活リハビリを行い、利用者がいつまでも住み慣れた自宅や地域で生活が続けられるようにサポートしています。きらめきでは、利用者同士の関係性も大切にしながら、利用者が自分の想いを話したり、やりたいことをしたりして自分らしく過ごしていただける事業所を目指しています。利用者や家族の状況に合わせて、通い、訪問、泊りを行い、ニーズに合わせたサービスを提供します。
事業所名	県民せいきょう 宝永きらめきハウス	管理者	辻本 理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 利用者1人ひとりが望む過ごし方ややりたいことなど、想いをどう聞き取るのか、そして、それがどうしたら実現できるのかを会議で話し合います。利用者のできる力に目を向け、「どうしたらできるか」を考え実践し、利用者一人ひとりに合わせた支援ができるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究に取り組み、利用者の抱える課題に対し、職員全員が同じ目標を持って支援を行い、課題の改善つながりました。 職員が共通した目的意識を持つことで、利用者を見る視野が広がり、これまで気付くことの出来なかった出来る力や新たな課題を見つけることができました。そして、支援の幅が広がることを、今回の取り組みを通じて職員全員が実感しました。特に、新人職員や経験の浅い職員にとって大きな学びとなりました。 介護度が高い利用者にかかわる時間が多くなることもあり、利用者一人ひとりとじっくりと向き合うことが難しいときがありました。 		<ul style="list-style-type: none"> ケアを行う中でも、積極的にコミュニケーションを取り、個別に向き合える時間を大切にしていきます。 カルテの情報だけでなく、生い立ちや生活歴、趣味などについて、本人だけでなく家族からも話を聞き、利用者一人ひとりをより深く知ること、様々な角度から利用者の想いを引き出すアプローチをしていきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 不快な臭いや感染症予防のため、換気は継続して行います。 継続して日々の写真や利用者と一緒に作った作品は事業所内に掲示し、あたたかみのある空間作りを行います。 きらめきに来られた方には、明るい挨拶と対応で、気持ちよく入りやすい事業所を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 換気は定期的に行い、不快な臭いがしないことや感染症対策に努めました。 利用者と一緒に作った季節の作品や写真を掲示して、明るい空間を作ることができました。また、ご自身が作った作品が掲示されることで、それを見ながら利用者との会話も弾みました。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内に入ったことがないので様子が分からないです。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議時には、事業所内の様子を見ていただく機会を作ります。 きらめきに来られた方には、明るい挨拶と対応で、気持ちよく入りやすい事業所を目指します。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 福祉委員としての活動を継続して行います。 感染症対策を行いながら、家族会（数回に分けて実施）を開催します。また、コロナウイルスの感染状況をみながら、認知症カフェ開催や早朝トレーニング、集会室の開放を行っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症のため、認知症カフェやふれあいお食事会、早朝トレーニング、組合員集会室の貸し出し、家族会といった取り組みは行うことができませんでした。 宝永地区福祉委員としての活動は継続しました。 中学生の職場体験や実習生の受け入れを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのかかわりは、業務もしながら難しいところもあるかもしれないが、地域としても情報交換の場や連携の場を作っていけたらと思っています。 以前のように、たからサロンで集会室を使用できるようにすると良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動として、感染症対策を行いながら、認知症カフェの再開、家族会（数回に分けて実施）を開催します。 利用者の声を聞きながら、地域への外出の機会も増やしていきます。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が暮らす地域での昔からの関係性を把握します。（軒下マップを活用する） 利用者、家族、地域との関係が途切れてしまわないよう、何ができるのかを検討し支援していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染や感染拡大防止のため、家族との時間が持てなかったことがありました。 行える活動にも制限がありましたが、できる限り利用者の意向をお聞きした企画を実施しました。 地域資源について学習することができませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の地域イベントは、運動会（AMのみで開催）や敬老会も開催される予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症が、第5類に移行となり、活動の制限も緩和されていくと思われるので、基本の感染対策は徹底しつつ、外出の機会を増やして地域へ出向き、また、家族との関係が途切れないように支援していきます。 利用者一人ひとりを支えている地域資源を把握し、在宅生活を支援します。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、広報紙で「運営推進会議とは何か？」を、利用者・ご家族に案内し、参加していただけるようにします。 ・家族会の中で運営推進会議を実施し、利用者や家族、地域の声やニーズを聞き取ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族に運営推進会議に参加していただけるよう、広報紙を通して運営推進会議の案内を継続しました。 ・事業所内でコロナウイルス感染もあり、家族会は中止させていただき、また、運営推進会議も書面確認とさせていただくことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所でも、運営推進会議は、開催されていなかったところもありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も広報紙等で、運営推進会議を利用者、家族に案内し参加していただけるようにします。 ・会議時には、事業所内の様子を見ていただいたり、事例研究の取り組みを報告したりして、より事業所のことを知っていただき、地域の方の心配ごとや地域との取り組みについても、一緒に考えていきます。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の防災訓練だけでなく、地域の防災訓練にも参加していきます。 ・運営推進会議で、事業所の防災計画を共有していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の防災訓練や事業所の防災計画の共有を行うことはできませんでした。 ・事業所では、2回（7月、2月）防災訓練を実施しました。 ・宝永地区の利用者3名の個別避難計画書作成を行いました。また、台風が接近した際、福祉避難所として2名の方の避難受入れを行いました。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の防災訓練を2回（7月、2月）実施します。 ・福祉避難所として、要請があった際には、迅速に開設できるようにしていきます。 ・運営推進会議で、事業所の防災計画を共有していきます。